

# みんなで楽しむ音楽鑑賞会 「第2回 わくわくコンサート」

代表者 葛西 良平 (教育学部学校教育教員養成課程3年)



## 1. 目的と概要

- (1) 一般の音楽会に参加することが難しい児童と保護者、サポートの必要な方等を対象とした音楽鑑賞会(「第2回 わくわくコンサート」)を運営し、音楽鑑賞の機会を提供するとともに、「共生」の場の提供となることを目的とする。
- (2) 運営に関しては、香川大学の学部を越えた連携を行うと同時に、サークル、卒業生・修了生、教員、地域の方々の協力も得ながら行う事業である。地域社会と大学の人的な交流の場という性格も併せ持つ。
- (3) この事業は、昨年度、市民から好評を博した「第1回 わくわくコンサート」をさらに改善し、継続的に実施することを目的とする。

## 2. 実施期間（実施日）

平成 20 年 4 月	実行委員長決定。 「第 2 回わくわくコンサート実行委員会」の活動を開始する。
7 月	学生支援プロジェクト事業採択される。
夏休み期間	実行委員のホール見学。 不足の事業費獲得に向けて活動を行う（企業訪問等）。
8 月	演奏曲目の確定と出演者への協力依頼。 バレエ団の協力が得られる。 後援申請開始。
9 月以降	各実行委員の分担の詳細を決定
10 月	サンポートホール高松の照明の協力を得られる。 出演者の最終決定、企業の協力等の決定。
11 月	各チームで連携をとりながら準備を進める
12 月 19 日	チラシ完成 HP で広報開始
平成 21 年	
1 月	チラシ配布
広報	RNC「ミュージック・イン・ランチ・ボックス」生出演 FM 香川「ステーション・ランデブー」出演 OHK スーパーニュース SPA（イベント情報）
記事掲載	・リビング高松 ・朝日新聞社 ・読売新聞社 ・四国新聞社
2 月 7 日	みんなで楽しむ音楽鑑賞会 リハーサル
2 月 8 日	みんなで楽しむ音楽鑑賞会 本番 来場者 1500 名
	当日夜 18:45 NHK イブニングニュースで放映される。

\*この間、各チームごとに活動を行う。また、2 週間に 1 度、全委員による実行委員会を行う。



RNC 森佳子アナウンサーと



FM 香川 藤澤翼さん(DJ)と

### 3. 成果の内容及びその分析・評価等

#### (1) 今年度の主な改善点と成果

##### 1. ホールの変更

昨年度、特に車いす席の確保に苦勞したことから、ホールの変更を決定した。収容人数も増えるために不安もあったが、結果的には、サンポートホール高松大ホールが満席となった。また、サポートの必要な施設からの鑑賞申し込みや、親子室(18席)希望もすることができた。一方、来場者が多すぎることで発生する課題も出てきたのは、今後の課題となった。

##### 2. 外部からのボランティアの受け入れ

様々な人たちの交流の場としたいという趣旨に基づき、今年度は外部からのボランティアを募集した。特別支援学校の協力を得て、5名のボランティアの方に協力していただいた。



また、小学生ボランティアも募集し、2名が参加した。いずれも、担当の実行委員を配置し、充分に対応できるように配慮した。

##### 3. 実行委員の連携の強化

異なった専門をもつもの同士がチームを組んで活動(多様な意見の反映のため)を行った。

#### (2) 今年度の活動

##### ●チラシのデザイン



演奏会のチラシは、始まって間もない事業であることから、昨年との継続性も考慮して、昨年に引き続き、教育学部美術領域の小片麻衣子さんに依頼した。海外で集めたコンサートのチラシや雑誌、CDやDVDなどの音源を参考に、小片さんがチラシ、イラストを作成した。

特にチラシは大好評で、もっとほしいという問い合わせが多く、対応に苦慮した。



### (3) 分析・評価

ご来場していただいた方々に行ったアンケートの結果、やはり席が足りないのご指摘があった。来年度は整理券を導入したり、ホールの収容人数をもう1度考慮したりするなどして手を打つ必要がある。

また、プレイベント・おまけイベントの満足度が高学年において低く、参加していない人も多かった。あらゆる年齢層に対応できるものを用意して臨まなくてはならなかった。

## 4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクトを実施したことにより、地域の人々にとって、音楽というものがより身近に感じられるようになったと考える。普段聞くことのできない音楽を、無料で、しかもほとんどプロによる演奏で聞くことで、これから音楽に興味をもち、楽器や声楽などに挑戦する子どもも出てくるかもしれない。また、今回は音楽だけでなくバレエを取り入れたので、バレエに手を伸ばす人もきっといると思う。

音楽に関する成果だけでなく、地域周辺の老若男女さまざまな人が1か所で活動をとるということにも意味があると思う。たとえば、障害をもった方だけのための音楽会はあるが、障害者と健常者が同じ場で時間を共有することにより、共生への第一歩が生まれるのではないかと考える。また今回はボランティアとして特別支援学校の高等部の生徒を招くことで、ともに同じ場で働くよいきっかけづくりになったと思う。

これらのように、①音楽に触れるきっかけ、②共生への第一歩として、大きな影響を与えた。

## 5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

このプロジェクトは昨年度も行っており、今回が2回目なので、特に問題もなくスムーズに進むものだと思っていた。しかし、現実はその甘くなく、昨年やったからこそそれよりも良いものにしなければいけないということで、試行錯誤する日々が続いた。また、今年度は予算の面でとても苦労し、たくさんの企業を回って後援を申請することになった。それにより協力してくださった皆さんのおかげでここまで大きなプロジェクトを実施することができた。

私はこのプロジェクト全体を通して、続けることの難しさを知り、また向上心がないと何事も続けられないのだと知った。また、さまざまな団体や企業の支援によって成功したので、1つの大きなことをやり遂げるには、多くの人々の協力によってしかできないのだと気付かされた。今回の経験を生かし、大きなことに向っていくチャレンジ精神と、協力することの大切さを忘れないようにしたい。

## 6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

今年度、わくわくコンサート実行委員会は2年目を迎えた。事業を通して電話や放送の現場の幾人もの方々から「この事業を行っていることを、香川大学生として誇りに思ってください」という激励の言葉をいただいた。もし、この事業にそういう意義があったとしたら、以下の点をあげられるのではないかと思う。

- ・多くの日頃音楽ホールに足を運ぶ機会のない方々に、無料で公共のコンサートホールでの本格的なコンサートを楽しむひとときの提供となったこと。
- ・サポートが必要とのお申し出いただいた方々に、できるだけ細かい配慮ができるように努力したこと。またサポートの必要な方々の施設からの来場希望に応えることができた点。
- ・特別支援学校の生徒さんや小学生もボランティアとして迎え、それによって互いに学び合う場となったこと。

しかしまだまだ実行委員会自体に経験不足や力不足の点も多く、多くの方々にご迷惑をおかけした。多くの方々からのご援助とご助力によって、何とか事業が終了したというのが実際のところである。本当の意味でその激励の言葉に近づくためには、実行委員会には一層の経験の蓄積や努力が必要であると考えている。

今年度は新体制のもと、昨年度の課題をもとに様々な試みを行った。特に、組織を大きく組み直した。中でも異なった学部生や他領域の学生同士が連携をとったチームとして活動することを目的の一つに掲げた。社会に出る前に、日頃の学生生活ではあまり接することのない方々と頻りにコミュニケーションを持てたことは、実行委員それぞれにとって、おそらく将来にとってたいへん有益なものとなったと思う。学内でさえ、ふつうなら、関わることの少ない先生方とも交流する機会を得て、貴重な体験やいろいろな話ができることは楽しくもあり、また、とても興味深いものだった。アドバイザーの先生方の高い専門的知識に触れ、自らの研究の視野を広げる場ともなった。

次に、今回もいくつもの企業をはじめとして、本当に多くの皆様のご協力をいただいた。それらのお力添えによって、このような大規模な事業を何とか無事に終えることができた。また、ご協力いただいた方々の間近で、プロならではの仕事ぶりを見せていただくこともでき、たいへん得るところが大きかった。特に臨機応援な対応は、幾度も未熟な私たちの助けとなり、忘れることができない経験として心に刻まれている。ありがとうございました。

ほかにも学生ボランティアとして参加してくれた仲間や、当日以外にも協力してくれた友人たちの力もこの事業を成功させる上ではとても重要だった。仲間の力や協力しあうことの力強さも改めて実感した。

「第2回わくわくコンサート」は、当初の予想をはるかに上回る方々にご来場いただいた。その原因には、3つのことが指摘できると思う。

- (1) 昨年度の高評価を伝え聞いた方々が多くご来場くださったことである。事業を継続することは、資金面をはじめとして大変ではあったものの、継続したからこそ得られた力や、意義も感じた。
- (2) 広報活動が効果を発揮した点が挙げられる。今年度は、実行委員の中に広報担当者を置いた。後援をお願いする際にも何度も足を運び、広報の協力もお願いした。ホームページを

見た新聞社等からの問い合わせもあり、依頼をいただいた RNC、FM 香川のラジオ収録には実行委員が出演した。また、チラシ配布を始めて以後、チラシの効果もあってか一般の方々からの電話による問い合わせが非常に多く、予想以上に反響があった。

- (3) ホール3階席まで、超満員の1500名のお客さまにご来場いただいたことは、香川県でこのような事業へのニーズが高いことを示していると思う。さまざまな意味から、このような事業が求められているのだと感じる。

私たち実行委員会では、これほど多くの方々に来場されることを想定しておらず、また、3階席まで来場者を迎える備えもなかったため、当日は次々と対応を迫られた。来場者があるのかを心配していた去年のことがうそのようである。このことは、今後で開催する際の最も大きな課題として残った。この点について、すでに外部から有益なご提案を下さる方もあり、検討したい。

卒業生・修了生の中には、この事業に賛同しボランティアに来てくれた方もあった。多くの方々のご厚意に応えられるよう、今後の活動について検討を重ねなければいけないと考えている。

最後になりましたが、この事業に関わっていただいた全ての皆様にお礼を申し上げます。

## 7. 実施メンバー

代表者	葛西 良平	(教育学部3年)		
副代表者	堀田 真央	(教育学部4年)		
代表教員	青山 夕夏	(教育学部音楽領域)		
構成員	藤井 真由美	(教育学部3年)	半田 宗也	(工学部3年)
	山本 加奈子	(教育学部3年)	伊地知 理	(教育学部3年)
	三島 千絵	(教育学部3年)	畦田 芳広	(教育学部3年)
	料治 和典	(教育学部2年)	品地 沙由理	(教育学部4年)
	滝川 育美	(教育学部3年)	河井 美奈子	(教育学部3年)